

令和2年度
事業計画書

令和2年4月 1日から
令和3年3月31日まで

公益財団法人
タカミヤ・マリバー環境保護財団

はじめに

昨年度末より、世界的規模で感染が広がっておりますコロナウイルス感染症の蔓延が、新年度に入っても、今だ、終息が見えない状況の中ではありますが、当財団は、新年度も、従来、認定を受けております以下の5事業に関しての活動を行って参りたいと考えております。

当財団の主要事業であります紫川への**アユ放流事業**は、財団設立以前の活動を含めると35回目を迎え、地域住民の多数の参加に支持されております。

環境保護シンポジウムは、25回を数え、多数の市民の方々から好評価をいただき、近年、参加者も大きく増えております。

また、市内の環境保全団体に対する活動資金助成事業（マリバーエイド）では、助成団体数は60団体近くを数えております。

令和2年度も、過去の活動を踏まえつつ、地域の水辺環境と真摯に向き合い、公益法人の要件である公益性、公平性を保ちながら積極的に諸事業を実施し、より高い信頼を頂ける公益財団を目指して参りたいと考えております。

公益目的事業計画

- I. 河川・海岸線の美化推進事業
- II. 水生生物の生態研究及び保護・育成事業、海域の水産資源保護増殖事業
- III. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあい事業を行う団体に対する助成事業（マリバーエイド）
- IV. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあい事業に関するシンポジウム・環境教育事業
- V. 北九州市環境ミュージアムの運営・管理事業

I. 河川・海岸線の美化推進事業

1. 環境美化イベント事業

財団主催、及び共催により、令和2年度は6回の河川・海岸線美化清掃イベントを実施いたします。内訳は、紫川、大蔵川、金山川を中心として年間3回以上の市民参加を呼掛けての河川、河畔での清掃イベント、小倉海岸、若松北海岸、門司大里海岸、若松響灘海岸を中心として、年間3回以上の市民参加の啓発型清掃イベントを実施いたします。

2. マリバー号による塵芥回収事業

マリバー号による市内海岸線、河川敷の塵芥回収事業は、今期も積極的に回収活動を実施して参りたいと考えております。事業内容は、乗務員2名により月曜から金曜までの毎日、北九州市内の海岸線や内水面での、市民への環境美化の呼びかけ運動、及び乗務員による清掃、ゴミ回収及び処理並びに広大な北九州市内海岸部及び内水面周辺に投棄される不法廃棄物の監視、担当部署への通報活動を行って参ります。

また、土、日祭日等に開催されます環境保護関連イベントには、主催者の要請を受け、水辺環境美化に対する啓発活動を実施します。

マリバー号巡回・海岸線エリア

- ア. 脇田海岸エリア
- イ. 響灘エリア
- ウ. 戸畑・若松エリア
- エ. 日明エリア
- オ. 砂津・末広エリア
- カ. 門司港・和布刈エリア
- キ. 太刀浦エリア
- ク. 新門司北エリア



マリバー号巡回・内水面エリア



Ⅱ. 水生生物の生態研究及び保護・育成事業、

海域の水産資源保護・増殖事業

昨年度、一昨年度と、近年における全国的な魚類生息確認において、取り入れられております DNA 鑑定による調査方法を選択しました。

結果、従来の魚類全般の生息調査とは多少、異なる反応は示したものの、一定の生息域、生息数が確認されました。

令和 2 年度については、再度、「アユ」の遡上確認を行って、数年前に石組みを行った魚道の機能を検証してみたいと考えております。

1. 令和 2 年度 水生生物の調査研究事業

【魚道改良による稚アユ遡上への効果調査】

①場所

北九州市小倉北区木町 2 丁目（紫川井堰【新日鉄取水堰】）

②調査期間：令和 2 年 4 月 10 日～5 月 20 日

※週 2 回の計 12 回実施、8:00～17:00 の時間帯を 30 分間隔で計測

③方法

魚道上端部を通過する個体を捕獲・目視計測する。

④目的

紫川では、平成 28 年度に紫川井堰（新日鉄取水堰）において、日本大学理工学部の安田陽一教授指導のもと、「遡上しやすい魚道づくり」として「石組」による魚道改良を、福岡県、北九州市、当財団の三者による官民学協働で実施した。また、その翌年となる平成 29 年度にはアユ遡上調査を実施し、過去に日高先生が実施した稚アユの遡上数を上回る多くの遡上を確認した。

今年度は魚道改良から 4 年目を迎え、再びアユの遡上調査を実施し、魚道改良によるアユの遡上効果について現況把握を行い、過去の結果と比較検討を行うものである。

- ・紫川における遡上稚アユ数の推測（概算）
- ・稚アユ遡上の傾向解析（遡上の時間帯、潮汐との関係など）

また、4 月に福岡県水産振興課よりのご協力を得て、福岡県産の稚アユ 2 万尾を放流します（4 月 18 日を予定ですが、放流のみの可能性有り）。

2. メダカ・ホタルの保護

メダカ・ホタルの保護につきましても、市内各所で助成金交付団体である地域団体を中心としての、調査・増殖を行っております。放流種につきましては、同一水系による種に限定する等、生態系に充分配慮し、遺伝子レベルで地域の固有種が守られるよう、場所・方法を選定し行っております。

3. 水産資源保護・増殖事業

北九州周辺の海域水産資源の保護・増殖につきましては、海水魚の稚魚の放流を市内各所で行い、資源枯渇を食止め、保護・増殖に努めます。特に生態系に配慮し、クロダイ、ヒラメなどの周辺海域の固有種を放流します。

Ⅲ. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年との

ふれあい事業を行う団体に対する助成事業（マリバーエイド）

当財団では、市民や環境保護団体の皆様と協力しあい、より美しく、自然豊かな北九州市の水辺環境づくりに取り組んで行くために「クリーン・マリバー・ネットワーク」運動を提唱しています。一人一人の力だけでなく、また一団体の活動だけでなく、大きなネットワークとして連動して盛り上げていこうという運動です。

このため、当財団では環境保全や水生生物保護などに関するPRや事業活動を積極的に推進する一方、関係団体の活動にも資金援助や協力をさせていただき助成金制度を設けています。

この制度の愛称を“タカミヤ・マリバー・エイド”と呼び、当財団の趣旨に沿った事業の実施を目的とした活動実績を有し、北九州市に所在を置く任意団体、又は有志の調査・研究グループ（自治会、子供会、学校を含みます）を対象としております。

この助成金の交付の対象となる事業（以下、「助成事業」という）は、事業開始前の2月1日より3月10日にホームページ及び関係行政機関等を通じて公募し、その対象は次に掲げる1～5を充たすものとします。

1. 財団定款第4条（1）～（3）に沿った事業の実施を目的として活動実績を有し、基本的には北九州市内に所在を置く任意団体、又は有志の調査・研究グループ（自治会、子供会、学校を含む）。
2. また、次に掲げる要件を備えている団体、又はグループ。

- ・現在、団体の意志を決定し、執行する組織を維持していること。
 - ・自らを経理し、明朗な会計機能を有すること。
 - ・代表者または事務局担当者の責任、所在連絡先が明確であること。
 - ・事業全体の適切な事業報告書（含会計報告書）の作成、提出等が確実に履行出来ること。
3. 財団定款第4条（1）～（3）に沿った、特別なイベントの主催団体。
- ・但し、営利目的の事業、企業色の強い、宣伝を意図したイベントは除く。
4. 財団定款第4条（1）～（3）に沿った事業内容で、申請を希望する団体が直接主催する事業。
5. 実施地域は、北九州市を中心とした福岡県内に限るものとし、令和2年4月1日から令和3年3月31日までに実施予定の事業

この事業の対象団体の審査、選定にあたっては、学識経験者を中心とした「助成金選定委員会」により、厳正かつ公平な運用を行って参ります。

令和2年度助成事業（過去の実績と現在の申請状況からの目安）

- ①河川環境美化・清掃事業及び河川愛護団体との協力、ならびに支援事業
- (1) 河 川 北九州市内の河川
 - (2) 区 間 北九州市内域の全区間
 - (3) 助成団体 15～20団体
- ②水辺の自然と青少年とのふれあい事業
- (1) 事業概要 キャンプ教室・釣り大会・その他自然と親しむ水辺でのイベント
 - (2) 助成団体 15～20団体
- ③水生生物の生態研究並びに保護・育成事業
- (1) 習性研究・遡上数調査
 - (2) ホタル飼育
 - (3) 助成団体 15～20団体
- ④河川・海域の水産資源保護・増殖並びに沿岸域の環境美化事業
- (1) 北九州市への稚魚放流
 - (2) 北九州市沿岸域の環境美化・清掃
 - (3) 助成団体 1～5団体
- ⑤その他
- (1) 環境教育事業
 - (2) 海岸線緑化他
 - (3) 助成団体 10～15団体

IV. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究増殖、水辺の青少年との

ふれあい事業に関するシンポジウム・環境教育事業

この事業は、公1、公2、公3の事業内容をより、一般市民へ広めていくために開催するシンポジウム、及び同様の主旨での子供たちへの環境教育活動を行う事業です。

シンポジウムは、毎年1回市民に対して環境保全の必要性を訴える啓発活動の一環として、毎回、環境に関するテーマを設定し、テーマに沿った特別ゲストやパネリストと共に、環境問題に取り組んでいる方々や、団体を招いて開催します。

今年度も例年同様の規模にて、下記のように計画しております。

1. 第25回タカミヤ・マリバー環境保護シンポジウム

詳細は今後決定をさせていただきますが、令和2年度のシンポジウムは11月下旬に下記の要綱で実施予定でございます。

- ◆日時 …… 11月下旬
- ◆会場 …… 北九州市商工貿易会館
- ◆主催 …… (公財) タカミヤ・マリバー環境保護財団
- ◆共催 …… 北九州市
- ◆基調講演 …… 未定
- ◆講師 …… 未定 (現在、選考中)
- ◆参加者 …… 約250名 ※参加費無料
- ◆行程 …… 1. 主催・共催挨拶
2. 助成先団体紹介
3. 団体表彰
4. 基調講演

2. 環境教育

財団では、これまでふれあい体験活動や、ホテルの飼育、遊休地を活用したビオトープ作りを行っている小学生との対話、活動協力等を通して、様々な子どもたちへの環境活動を、直接的、間接的に行ってまいりました。今年度も引き続き、市内小学校や大学と連携し、次世代を担う子どもたちの健全な育成に取り組んで参ります。

ホタルやメダカといった水棲生物の保護・育成を目的としたビオトープ作り、市内の川や池・海岸をテーマとした生物調査や水質調査に積極的に参加、支援を行って参ります。

当財団は、様々な野外体験や自然体験を通して得られる自然の摂理や自然の尊さ等を学ぶ機会の場合、継続して提供していくことが重要だと考えております。今年度も引き続き小学校や地域の団体、PTA・教育委員会等との連携を密にとり、子ども達への環境教育支援を強化して参りたいと考えております。

環境教育決定事業

- ① 今町小学校自然体験教室 ※日時・・・7月11日(土)を予定
「ふるさとの川・紫川のことを知る」
- ② 大蔵小学校自然体験教室 ※日時・・・9月5日(土)を予定
「大蔵川の水生生物」

V. 北九州市環境ミュージアムの運営・管理事業

1. 基本事項

○理念と基本方針

北九州市環境ミュージアム条例には以下4つの設立目的が記載されています。

- (1) 公害克服の過程、環境の保全、環境への負荷低減に資する技術等に関する資料を収集し、保管し、及び展示する事業。
- (2) 環境の保全に関する学習及び交流の場を提供する事業。
- (3) 環境の保全に関する啓発事業。
- (4) 市長が必要と認める事業。

以上、4つの事業を推進し、以下の理念・方針に沿って管理運営を行います。

2. 管理運営

- (1) 施設の設置目的の達成に向けた取り組み
 - ・入館者数目標は、年間13万人以上を目指す。
 - ・設備とライブラリー充実させる。
 - ・新たな領域への企画提案。
 - ・サポーター会の協働で人財育成(ガイド育成等)。
 - ・SDGsを主題とする「SDGs大学」「SDGsサロン」の開設を検討。
 - ・多様なテーマでのワークショップを拡大、実施。

- ・青空学の継続実施。
- ・再生可能エネルギー、炭素、SDGs 等に関わる企画。
- ・フードロス等食関連企画。
- ・出張活動ミュージアムの拡充。
- ・提携小学校を設け見学後の追跡調査・アンケート見直し、学習効果の分析。
- ・国内外の環境教育施設、研究機関、企業とのネットワーク拡大。
- ・サポーター会の経験情報の見える化。
- ・東田地区ミュージアムパーク創造事業推進、3館連携、世界遺産、産業遺産イベント企画。
- ・ガイドからインタープリターへの人財育成。
- ・オペレーションカレンダーを元に効率的な人員配置。
- ・リピーターを増やすための企画展「城山小学校展（続編）」などの実施



R1 年度の城山小学校展

- ・民間企業の SDGs 活動などを紹介する企画展示の検討。
- (2) 利用者の満足向上に向けた取り組み
- ・利用者のアンケート満足度 97%を目指す。
 - ・入館料の無料化で気軽に立ち寄れる施設とする。
 - ・夏休みは無休、祝日の月曜日は開館、利用者のニーズに応えるために開館時間の延長短縮を検討。
 - ・市民・NPO・企業・学校等が、日頃から実践している様々な環境活動を発表する場として提供。
 - ・小中高大一般向けにそれぞれ新規プログラム開発、パッケージ化。
 - ・土日祝日のイベントを多様化しファミリー層の取り込み。
週末の授乳室設置。
 - ・キッズエリアを設置し手作りおもちゃ等活用して環境コミュニケーション促進。
 - ・何度きても楽しく学べる、リピーターの増加。

- ・レポートや卒業研究のアドバイス出来る相談員を育成。
- ・情報ライブラリーのコンセント、WI-FI の整備し PC 持ち込み可能とする。
- ・個人向けには、館内アンケート以外に月 1 回の聞き取り調査、SNS 利用の調査実施。
- ・利用者の苦情をアドバイスとし館内と Web に掲示し見える化、マニュアル化徹底改善、職員研修。
- ・図書貸し出しをシステム化し効率化を図る。
- ・自由研究に役立つ資料やエコレシピを職員が作成し配布物の充実を図る。
- ・定期的な接遇研修実施、身だしなみの標準化を図りおもてなし向上。
- ・通訳を伴わない外国人利用者も安心して見学し楽しめる施設づくり。
- ・手話が出来る職員配置、筆談可能表示や筆談用品設置。

3. 人員計画

(1) 組織体系

アドバイザースタッフ 館長 1 名

運営スタッフ

事務局長 1 名

施設長 1 名

事務局長代理 1 名

センター長 1 名 (非常勤)

マネージャー 1 名

ガイド 10 名

アドバイザー会議 北九州市環境ミュージアム指定管理者運営委員会


(2) 人材育成


- ・職員の専門性を高めるため、環境関連のセミナーへの積極的な参加や各自テーマを設けての研究・プログラム開発を実施。
- ・環境学習サポーターとの共同だけでなく、幅広い分野の他施設・団体と交流することで活動の幅を広げる。
- ・どなたでも気持ち良く施設が利用できるようホスピタリティとユニバーサルの研修の実施。
- ・多言語に対応できるよう、外国語や手話ができるスタッフの育成。

4. 事業プログラム計画

以下の通り、計画に基づいた事業を実施いたします。

事業名	実施内容
① 青空学（継続）	環境未来都市北九州市の原点である「公害克服の歴史」を後世に語り継げるよう、学術連携を図りながらアーカイブ化します。集約した情報は青空学ホームページに公開し、市民が閲覧できる体制作り。
② SDGs サロン（継続）	<p>SDGs サロンの理念、目標の内容、個人個人がどのように取り組むか…議論の場を構築。</p>  <p>第2回 2.15 (土) --- 全2回講座 ---</p> <p>第一部 各種提供 13:00-14:30 「わかりやすいSDGs」 佐藤 明史 環境ミュージアム施設長 無料</p> <p>第二部 SDGs シネマダイアローグ 15:00-17:00 「アリ地獄のような街」 無料</p> <p>お問合せ 北九州市環境ミュージアム 〒806-0071 北九州市八幡西区宮崎2-2-6 TEL:093-663-6781 FAX:093-663-6783</p> <p>R1 年度 SDGs サロンのチラシ</p>
③ 環境ワークショップ実践講座（継続）、東田エコスクール（継続）	環境ミュージアムで実施するプログラムのノウハウを伝える講座の開講。
④ 科学実験講座（継続）	やさしい科学の実験を通して、科学の楽しさを体験する
⑤ 3R啓発事業（継続）	環境活動の基本である3Rのさらなる促進するワークショップを実施。
⑥ 来ホテルデー・ちょいエコホリデー（継続）	市民・NPO・企業・学校などが、日頃から実践している多様な環境活動を発表する場として開催し、より多くの市民へ様々視点から環境啓発を行う。

<p>⑦ イベントの拡充（継続）、東田シネマ（継続）、障がい者アート企画（新規）</p>	<p>これまで実施してきたイベントを継続して実施すると共に、利用者の声を反映したイベントやエコツアー等を新規に企画し、実施。</p>  <p>R1 年度ポリビア小・ひびきが丘小絵画展示</p>
<p>⑧ 出張環境ミュージアム（継続）</p>	<p>市民の環境力向上に寄与できるよう、外部へ赴いて環境プログラム実施。</p>
<p>⑨ エコハウスワークショップ（継続）</p>	<p>ライフスタイルから環境を考える講座を中心に、市内企業が手掛ける環境製品や活動の紹介等を行い、常に新しい情報を提供する。</p>
<p>⑩ 環境未来学習システム推進業務委託（環境コンシェルジュ業務の継続）</p>	<p>市内における環境学習の相談窓口業務および、市内環境学習施設を連携させたツアー企画・実施し、市民が北九州市全体を使って環境学習を行えるようサポートを実施。</p>
<p>⑪ 東田ミュージアムパーク創造事業（継続）</p>	<p>文化庁のクラスター形成事業「東田ミュージアムパーク創造事業」として「いのちのたび博物館」「イノベーションギャラリー」と連携しイベント、企画展、3館ガイドツアーなどを開催し東田地区の活性化に寄与する。</p>
<p>⑫ 小学生自然体験教室、サステイナブル国際会議、里山トラスト、各種シンポジウム（各継続）</p>	<p>JV 協働のもとに小学生への自然体験学習会を実施します。高校生、大学生を中心とした環境啓発講座を実施します。一般者に環境学習講座から人財育成につながる教育を広めて行く。</p>

<p>⑬ SDGs 関連イベント(継続)</p>	<p>持続可能な社会づくり及び SDGs 達成を主たるテーマにその実現に資するプロジェクトの企画、開発ならびに具現化していく活動を推進。</p>  <p>R1 年度企業と連携した SDGs イベント</p>
<p>⑭ 絵本カーニバル (継続)</p>	<p>R2 年度は、水・環境をテーマに開催。水・環境を含む絵本を選書。ミュージカルも環境～水のテーマで演じる。理科実験などを通して子供の頃から環境問題に興味を持つことを目的とする</p>
<p>⑮ 英語でサマースクール (新規)</p>	<p>子どもを中心に、英語を使って海や川についてのたのしく学ぶ。</p>